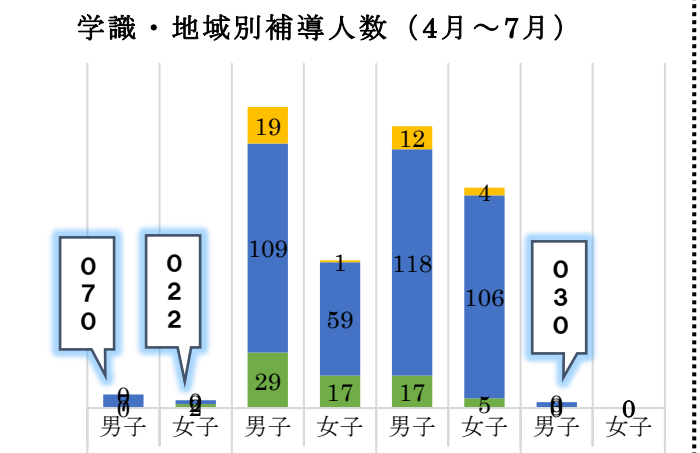
育成　あさくち

令和３年９月１日　No.42
浅口市青少年育成センター
９月号

９月１日からが新学期というのは昔の話で、各校にエアコンが設置され、市内の小中学校では８月25日が、２学期始業式となっています。それでも約35日間の夏休みを、子どもたちはどう過ごしたのか、青パトの巡回では計り知れない状況ですが、見えないところの動きが、気になるところでもあります。

ともあれ、新型コロナウイルスの猛烈な感染爆発?!の中ではありますが、２学期が始まりました。今学期も子どもたちの健全育成に、ご支援と協力をよろしくお願いいたします。

R3年度　学識別・地域別補導件数（4月～7月末）



	小学生 男子	小学生 女子	中学生 男子	中学生 女子	高校生 男子	高校生 女子	学生・有職 男子	学生・有職 女子
寄島	0	0	19	1	12	4	0	0
鴨方	7	2	109	59	118	106	3	0
金光	0	2	29	17	17	5	0	0

注意と声かけを合わせた件数は本年度５１０件で、同じく新型コロナウイルスの影響を受けた、昨年度の５１３件とほぼ同数でした。

学識別でみると、**高校生が262件**（昨年２１７件）で最も多く、**中学生が234件**（昨年２６０件）と、ほぼ同数となっています。また、**小学生は11件**（昨年31件）で、とても少ない数値です。(それ以外**3件**)

男女別では、**男子が314件**（昨年２４５件）で**女子が196件**（昨年２６８件）で、昨年と比較して、男女が逆転しています。

地区別では、寄島地区が３６件、鴨方地区が４０４件、金光地区が７０件となっていますが、児童生徒数と学校数の関係及び、巡回回数の関係で、鴨方地区が多くなっていると考えられます。各地区の状況は以下の通りです。

寄島地区

寄島地区では主に小中学校周辺や、寄島総合支所、大浦神社、寄島漁港、三つ山運動公園辺りを巡回しているが、学校周辺以外で子どもを見かけることはあまりない。さぬきやストアーから小学校への市道で、時折中学生と出会い声を掛けると、適当なことを返して来る男子中学生がいる。

鴨方地区

この地域は大型店舗や飲食店が多く、巡回も広範囲に及んでいる。人の流れが活発で、時に児童生徒への付きまといや、声かけ事案が発生することもある。また、高校生の登下校は多く、男女肩を組んだり、手をつないだり、時には不健全男女交際を目にすることが増えた。

金光地区

万引き防止のためマルナカ金光店を巡回しているが、金光交番で情報収集をしても、実際に万引きが行われることはほとんどない。人流の多いのは金光駅周辺なので、この辺りを重点的に巡回しているが、目立った問題はない。金光駅南側ロータリーに防犯カメラを設置するとのことなので、設置場所の確認と検討を行った。どの地区においても、概ね良好な状況が続いていると思われる。

校長先生の思い

このたよりから、市内小中学校の校長先生より、各校の取り組みや、日頃思われていることなど、テーマを設定せずに自由に書いていただき、それを掲載していきます。乞うご期待！

居心地のよい鴨方中学校を目指して…

浅口市立鴨方中学校
校長　村　下　　徹

○ほめて・認めて・励まして

本校では、『子どもたちが輝くクラスづくり・授業づくり』～言葉を大事にして、ほめて、認めて、励まして育てよう～ を研究テーマに掲げ、日々の教育実践に取り組んでいるところです。これは、数年前に浅口市教育委員会からの学級経営アドバイザー事業を受け、講師として招聘された教育実践研究家の 菊池省三（きくちしょうぞう） 先生との出会いからはじまりました。

これまで、生徒の多くは、将来への展望を持ちにくく、自己肯定感が低いことが課題としてありました。生徒自らの価値を認めさせるためのアプローチとして、菊池先生の「ほめ言葉のシャワー」を柱とした取組による生徒の変容は、すぐに教師側の手ごたえとして感じることとなり、授業や普段の活動の中に、「ほめて、認めて、励ます」実践の推進へと大きく舵を切ることとしました。

ほめ言葉のシャワーとは…
毎日、一人の生徒を主役にし、クラスのみんなで主役の生徒のプラスを見つけて伝えます。他者を理解し、認め合うことで温かく柔らかな雰囲気が醸成されます。

（帰りの会でのほめ言葉のシャワーの様子）

（菊池先生による授業の様子）

○生徒First

本校では、「主語は生徒に！」を合言葉とし、教師による“やらされ感”にならないよう、生徒主体の教育活動を展開することを大切にしています。

ほめ言葉の各種活動では、各学級で「ほめ言葉プロジェクトリーダー」が選出され、学級や学年をこえた取組を工夫しています。

昨年度は、ほめ言葉の取組を伝承していく意味と、地域の方々に鴨中の取組を知っていただくために、生徒の手によって、のぼり旗が制作されました。

また、「地域とのつながり」も重視しており、令和元年度より学校運営協議会制度を導入し、地域とともにある学校として、学校・家庭・地域住民が学校経営に参画している中で、地域で活躍する中学生の姿、地域に貢献する中学生の姿を思い描いています。

地域の方々とともに活動の場面を探り、実現に向けて計画を立てていた矢先、新型コロナウイルス感染症の影響を受けることになりましたが、それでも、コロナ禍でもできる新たな取組を模索しています。

中学生として「何ができるか」考えながら多くの経験を積み重ねることは、未来の自分への自信につながると確信しています。

（3年生と１年生の合同学活の様子）

（のぼり旗を市へ寄贈したときの様子）

これからも、生徒同士の温かい人間関係をベースに、居心地のよい学校づくりを目指して、生徒が主役の教育活動に取り組んでいきたいと思います。